



ひとり歩きに対する家族の役割、工夫、アイデア、有効な対応方法

やってみよう



家庭で



例えば 本人が家を出たことを気づくよう工夫する!!

- ・ドアが開くとチャイムが鳴るようなグッズを取り付ける。
- ・玄関に赤外線センサーを取り付ける。
- ・ドアに鈴をつける。
- ・徘徊感知器を使用する。



例えば

本人に連絡先がわかるものを身につけてもらう!!

- ・洋服、靴、バッグ、杖に氏名、住所、電話番号を記入する。
- ・名前と電話番号が刻印されたネックレスを身につける。

例えば

本人の気持ちに寄り添う!!

- ・本人の楽しみ・心の拠り所を作る。
- ・本人の落ち着ける場所を作る。
- ・不満やストレスが発散できる趣味をしてもらう。
- ・本人が喜ぶことをする。



介護者Aさんの場合

玄関に「出かけるときは声をかけてね」と張り紙をしました。



介護者Bさんの場合

目印になるように赤い服等を着ていました。行方不明になったときに、警察の方にも捜してもらう目印になりました。



介護者Cさんの場合

反射板付きのキーホルダーをカバンに付けています。中にメッセージが入られるので、電話番号を記入しています。



介護者Dさんの場合

ひとり歩きは、大体、同じコースを歩くとします。出かけた時から帰るまでの時間を計りました。また、時間帯やパターンを把握するようにしました。

介護者Eさんの場合

本人がひとり歩きをしたい時に一緒に歩きました。一緒に歩くと落ち着いたので、その後、買物に行ったりして家に帰りました。

介護者Fさんの場合

一人で外出しようとしたら止めずに「いってらっしゃい」と気持ちよく送り出します。そと後をつけ距離を置いて見守ります。交差点で足が止まり不安げにした時が声のかけどき!! 偶然を装い、一緒に帰るか喫茶店で休むよう促します。



地域で



例えば 地域の協力を得る!!

- ・近所にひとり歩きの可能性があることをオープンにして、見つけたら連絡をもらう。
- ・あらかじめ、近所のスーパー等(本人のよく行く場所)に協力依頼する。

介護者Gさんの場合



本人が朝出かけることが多く、その理由を家族で考えてみると、以前はゴミ出しが本人の日課だったことがわかりました。そのため、ゴミ出しの日に声をかけてゴミ出しに行ってもらいました。近所にも朝出かける姿を見たら声をかけてもらえるようお願いしました。地域のなかで見守りがしてもらえるようになりました。

介護者Hさんの場合

昼間はデイサービスを利用して運動をしてもらいました。夜は疲れてぐっすり眠ってくれました。暇な時間を極力、減らすようにして、ひとり歩きを予防しました。

介護者Iさんの場合

どんどん歩いていく母。後ろからついていく私。私の横を通り過ぎていく人がいたので、「お願いします。前を歩くあの人に、「あなたの家は向こうですよ」と言って後ろを指差してもらえませんか。」と頼みました。大成功! 母は振り向いて、こちらに向かって歩き出しました。

街で



例えば タクシー会社のサービスを利用!!

本人に専用GPS端末機を持ってもらいます。家族からの依頼があった場合、指令センターにて居場所を確認し、警備車両が急行して保護します。

介護者Jさんの場合

「困っていたら助けてね」シールを作りました。

一緒に出かける時は、本人・介護者両方に付けて、周囲の人に分かってもらい、声を掛けてもらいやすいように考えました。介護者のシールには、「寄り添い中」と書きました。



介護者Kさんの場合

何回もいなくなってしまうので、GPS機能付きの携帯電話を身につけてもらいました。家族はタブレットを持ちました。時々間違っって押してしまう事がありましたが、すぐに連絡が取れました。

介護者Lさんの場合

携帯電話を常に持ってもらいました。携帯には孫のシールを貼り、孫からメールを送ってもらうと、大事に持ってくれました。

